日本の子どもの詩

兵庫

日本作文の会編

日本の子どもの詩

兵庫

日本作文の会 編

岩崎書店

日本作文の会
日本の子どもの詩 28
岩崎書店　昭56
110p　21cm
内容：28　兵庫
〔分〕911

日本の子どもの詩　28　兵庫
一九八一年四月一五日　初版発行

編　者　日本作文の会
発行者　森山甲雄
印刷所　株式会社　K・M・S
　　株式会社　金羊社
製本所　小高製本工業株式会社

発行所　岩崎書店
東京都文京区水道一―九―二
電話(〇三)八一二―九一三一(代)

©1981 Nippon, Sakubun no kai　〔分〕8392〔製〕108028〔出〕0360

はじめに

各都道府県別につくられた四十七冊のこの本ぜんたいには、一九一八年「赤い鳥」が創刊されてからあとの六〇年間につくられた、日本の子どもの詩のおもなものが、年代順にならべてあります。

これらの詩は、そのときどきによって、児童自由詩、童詩、児童詩、児童生活詩、生活童詩、生活綴方の詩などともよばれ、世界にもまれなものであります。

これらは、ねっしんな先生たちによる創造的な教育のいとなみとしてうまれたものですが、日本の子ども自身がつくりだした芸術（現代の子どもの〝わらべうた〟）としても、大きな意味がありましょう。

わたくしたちは、このことを頭において、念入りにこの本をつくりました。

この一冊は、そのうちの「兵庫編」であります。どうぞ、ひとつひとつしずかにお読みください。

日本作文の会

もくじ

1918
〜
1945

8 みみずく
机
からす
りんごの木の下
9 とりごや
夕方
春
ウシ
10 ツクシ
ムシロオリ
兄
11 見おくり
お母ちゃん
秋の空
12 みみず
豚
俵しめ
13 やぶ
いもほり
雨
花
14 春
馬
旅行
15 先生に
牛かい
暮
16 ふろの中で
でんぽう
17 木の芽時
荷馬車の馬
18 工事場
稲かり
19 稲こき
ねぶか洗い
20 おつかい

1945
〜
1959

22 ふとん
おかあちゃんへ
先生

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com

本だい
23 かがみ
牛
車おし
24 しわだらけやのに
薮原君 ついにとんだ
25 春
26 川
27 水車
父が帰ってきた日
28 僕の道具箱
29 製紙工場のけむり
おとうちゃん
おとうさん
30 苗うち
せん車ごっこ
31 しゅう字
むぎはこび
32 ささ
33 雨の日
そうめんふみ
夕ご飯の時
34 父の手
35 麦
ふろたき
夏枯れ
36 おつきさま
おかあさんのひざ
37 いもほり
だいてもろた
ながいも
38 おねえちゃんのしゅうがくりょこう
赤いたび
39 いな木の音
トンボ
40 参観日
うんか
41 月
手
42 市場
揖保川
43 牛の水
梨ぼり
44 からうすふみ
45 最後の一息
せんせい
46 し
おとうちゃん
47 むしろおり
金魚
48 なんで いばらんなんの
雪

49 先生のズボン
雪の夜
50 日記とおとうさん
ロボット
51 すみにくい
親類
52 けんか（思い出）
父

1960〜1969

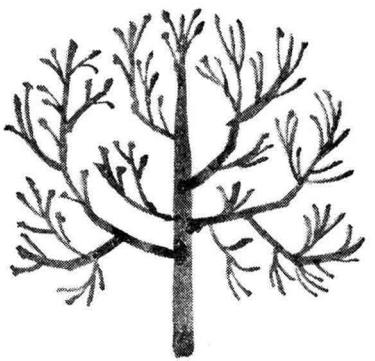
54 おかあちゃん
父がもどった
55 おかあちゃんの目
運動場
56 あみもの
人間牛
57 六年生
先祖
58 生徒会改選
ぶたのあかちゃん
59 けんか
たなばたさん
60 げっきゅう
ふろたき
61 鉄工場
まどぎわの席
62 ぼくの国日本
64 おやじさん
どんど雨
65 終戦っ子自殺——その新聞記事を読んで
67 はたらきに いっちゃった
かじ
68 ちち牛
一年の時のノート
69 おとうちゃん
いねはこび
70 いねはこび
バイオリン
71 交通戦争
72 さびと自分
73 牛おい
ふくろのし
74 帰り道
75 るすばん
うめの花さいておくれ
76 こぶしの花
雪の朝
海
77 おとうさんの手

78 出稼ぎの父と留守をまもる母
79 永浜先生
80 母

1970〜1979

82 えにっき
口頭詩 かたつむり
つばめ
83 てんとう虫
にわとり
ヤクルトはいたつ
84 おばあちゃん
85 たんぽぽ
握手
内職をする母
86 せんせい
せんせい
たまのこいびと
87 ごっつんこ
花火
こんだん会
88 千メートル走
89 友だち
「おかあちゃん」と「おかあさん」
90 じゅぎょうさんかん
かい
雨あめ こんこん
91 けいとうのたね
100点
92 ゆうやけにそまる雲
93 きつね
いっしょうけんめいの先生
94 おとうちゃんは ぼろぼろ
いつもお母さんが見ててくれる
95 なえを植えかえてみい
96 べい子
ベトナム和平
97 病気の母
小さいたんぽぽ
98 おじいちゃん
99 わらはこび
くろねこがひかれた
100 「曜」という字
おかあさんの手
101 つくし
やなぎおい
102 へそのお
はくせいのきつね
103 おかあさん

おかあちゃんが立った 104
先生 すきや 105
いのしし 106
自衛隊 106
*
あとがき——兵庫県の児童詩指導の歩み 107
この本の編集をした人たち 110



1918～1945

（大正７年）　（昭和20年）

ここからは、

＊日本の子どもたちが詩を書きはじめたころのもの。

＊生活を見つめて書くようになっていったころのもの。

＊戦争中のもの。

こんな詩が年代順にならんでいる。

みみずく

伊東すみ　小5

みみずくみみずく、
大きなおめめ、
大きなめめでも
ひる間は見えぬ。

赤穂郡新浜校

机

村上貞一　高2

机よ机さようなら、
久しうお世話になりました。
青いインキやナイフのあとも、
今日はしみじみなつかしい、
桃の花さく学校の、
机よ机さようなら。

加西郡在田校

からす

吉原留三郎　小5

夕方に
一人ぼっちで、
かえる道。
からすが三びき、
さきへとんだ。

加古郡母里校

りんごの木の下

佐藤竹介　中2

りんごの木の下で本を読む。
本が青くなったり、
黄色くなったりする。
時どき風が吹く。
日光がよく照っている。
静かだ。

神戸市神戸第一中

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

とりごや

岡本千馬男　小6

ちょうちんが
とりごやの中を照らした。
なにもない。
やかましくないていた鶏（にわとり）の目が
まんまるい。

加東郡三東条校

夕方

中島貴四郎　小6

夕方、
青空を、
白雲が通った。
大砲の煙のようだ。

出石郡小野校

春

中島貴四郎　小5

春になった。
昼（ひる）になった。
あがり口で
まま食った。

出石郡小野校

ウシ

ワタナベ　カズオ　小1

ウシガ　ヤスイ　イットッタラ
ヤセテ　モドッタ

養父郡協和校（指導）中島薫雄

ツクシ

ワタヌキサチコ　小1

ツツミ　ノ　ドテノ　ツクシガ
ハヤク　メ　ヲ　ダエタラ
ワシラア　ガ　アスバレル
ジャクリ　ヲ　ハイテ
ツクシノ　ボウヤ　ヲ
トリ　ニ　イカレル
ハヤク　ハルガ　キタラ
ウレシイナア
ウレシイナア
ハヤク　ツクシヲ　トリ　ニ　イカレル
アジカ　ヲ　サゲテ
ツクシ　ヲ　トリニ　イキタイ

養父郡協和校(指導)中島薫雄

ムシロオリ

ヨネダ　カネコ　小1

オトッチャンガ
ムシロオリ　ヲ　シトイデル
ワシハ　学校カラ　カエッタラ
マアチャント　オカアチャンガ
ムシロオリヲ　シンサルト
ウチガ　ヒビク
ドンドン　ヒビク

養父郡協和校(指導)中島薫雄

兄

朝田喜代　小4

郵便局から帰った兄さん
ぬれた服をていねいに
服かけにかけている
縁先(えんさき)の八ッ手は
つやつやと光って

葉にしずくが
チロリチロリ光る

川辺郡川西校(指導)谷淳五

見おくり

松田弘志 小5

日曜日の晩
兄さん達は下宿屋に行った。
僕は見送りに出た。
「さようなら」
「さようなら」
といいあった。
自転車が雪の上をすべった。
兄さんのすがたが
やみにきえていった。
「おい」
とよぶと
「おい」
と遠くの方から返事をした。
寒い風が吹いて来た。

養父郡協和校(指導)大谷猛

お母ちゃん

大下みちえ 小6

米を洗っていると
下から雪が吹きつけて来た
吹雪
米を洗う音
ざっくざっくしている
指先がしびれてしまった
大阪に行っているお母ちゃん
むこうもこんなに寒いだろうか
お母ちゃんおらんでつらいな

養父郡協和校(指導)大谷猛

秋の空

久光重平 小6

芝生の上にねころんで
秋の青空ながめた
何一つない

すみ渡ったコバルト色の大空だ
じいっと見つめていると
急に偉人になったような気がした

神戸市御影師範附属校(指導)畑尾氏

みみず

雨ふりの道
大きなみみず
はい出ている
きれいに
洗われている

森本米蔵 小6

氷上郡三輪校(指導)塩見義直

豚

豚のせ中を
たたくと
ぽんぽんいう
豚の毛は固い

蘭抜八重子 小6

氷上郡三輪校(指導)塩見義直

俵しめ

俵をしめている父
手に血が赤い
僕がいくと
「邪魔になる」と
叱った

淵上佐重 小6

氷上郡三輪校(指導)塩見義直

やぶ

上田徳治　小6

竹やぶに
まりがおちている
白くなって
へこんでいる

氷上郡三輪校(指導)塩見義直

いもほり

島田千代　小5

しんとしたくきを引っぱった
土がもれ上って
じゅずつなぎのように
いもが出た
にぎりこぶしのようないも
雀(すずめ)の頭ぐらいのいも
空には夕日がさして
くされたような雲が出ている

養父郡大蔵校(指導)岡本秀一

雨

篠木ちえ子　小5

池に降る雨
よく見ていると
水の中にあながあくようだ
私のかげも
ゆがんでうつっている

養父郡大蔵校(指導)岡本秀一

花

福本みさを　小4

しょうじをあけたら
どこからか
あまい花のにおいが
はなにあたる
にわのすみに
小さくさいていた花

飾磨郡上菅校(指導)福岡辰夫

春

宮川春子　小3

赤くなった麦
ほがならんで野原のようだ
その上をちょうちょうが
かくれたり見えたりする
所どころに電信柱がある

川辺郡川西校(指導)谷淳五

馬

岩本憲二　小5

すなのもってあるそばで
馬が
たいくつそうに
まっている
すなにうつる
自分のかげを見ている

城崎郡豊岡校(指導)東井義雄

旅行

奥山芳松　小6

もう十時間余りだな
そしたら
汽車の窓から
どんな所が見えるだろうな
都会の方は
豊岡にないどんなおもちゃが
売ってあるだろうな
転校した村田君や西村君が
えきにむかいに来た
かおがみたい
エレベーターなど
なんどもなんどものってみたいな
旅行の三日が一日でも
ながくながくであればいい。

城崎郡豊岡校(指導)東井義雄

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com